

調査報告 6

北京市卸売市場実態調査報告

中村学園大学 流通科学部

徐 涛

1. はじめに

本報告書は、本学流通科学研究所の共同調査「2010年度夏季海外実地調査」における食料品の生産・流通・消費等の実態調査により得られた情報をもとに、これまでの筆者の研究成果の一部、先行研究や専門家の講演資料などをもとに作成したものである。本報告書における調査先としては、北京順鑫農業發展集团有限公司（以下、順鑫集団と略す）と同社所属の卸売市場―北京順鑫石門農産品批発市場¹ 有限責任公司（以下、石門市場と略す）、北京新発地農産

品股份² 有限公司の新発地農産物卸売市場（以下、新発地市場と略す）の2社がある。

2. 順鑫集団と石門市場

(1) 順鑫集団について

順鑫集団は、北京市順義区が出資し、1998年に設立された国有企業集団である。同集団の全株式の75%は国が保有している。現在、北京国際空港に近い順義区に位置しており、農産物生産・加工、物流、販売を一体とした総合企業グループとなっている。2010年6月現在、総資産



図1 北京順鑫農業發展集团有限公司組織図

出所：順鑫集団 HP (<http://www.000860.com/gsjj/> 2010年11月9日アクセス) をもとに筆者作成。

108億元、累計売上高344億元に達しており、従業員は10,218名である。また、同集団は持株子会社12社、子会社6社、グループ本部直属会社4社を擁している。

同社が保有しているブランドとしては、中国馳名商標4件、中国名牌産品5件、北京市著名商標6件、内モンゴル著名商標1件、北京市名牌産品5件、国家級非物質文化遺産（無形文化遺産）1件がある。集団のホールディング・カンパニーである北京順鑫農業股份有限公司は1998年11月に深セン証券取引所に上場し、北京市初の農業系上場企業となった。登録資本金は4.3億元（約65億円）であった。



写真1 順鑫集団創新食品支社の食肉加工ライン
出所：筆者撮影。

順鑫集団は長年、継続的に農業産業化における国家重点龍頭企業、中国製造業のトップ500社、中国食品工業企業トップ100社に選定されている。白酒製造、種豚の繁殖と肥育、食肉の加工、農産物の物流、不動産業、水利施設の建築施工、飲料水製造などの六大業務において急成長し、産業的な関連性を整備し、多角的な発展を遂げている。現在、同社における豚の年間

屠畜処理能力は300万頭に達している。北京市最大の食肉生産基地を所有しているため、生鮮豚肉製品の北京市場におけるシェアは40%以上に上っている。また、集団所属企業の牛欄山酒廠で生産されている「牛欄山二鍋頭酒」は300年以上の歴史を持つ「中華老字号」³であり、247ヶ所の中国海外駐在機関の専用ギフトとなっている。

さらに、同集団は特に食品の安全システムと農産物の物流配送システムの構築に注力している。所属子会社の鵬程食品支社と創新食品支社は、近年新たに日本などから導入した物流システムを利用して、2008年の北京オリンピック、パラリンピックの際は、大会食品供給企業の役割を無事に果たした。特に、2008年の北京オリンピックに関しては、63%の青果物が同集団から提供・配送されている。その他、著名な外食企業であるKFC、ピザハット、吉野家などのほか、コンビニエンスストア・チェーンの食品加工・配送業務も担っている。さらに、北京市教育委員会から業務委託を受け、市内300以上の小中学校に給食用の加工済み原料を提供している。今後は給食メニューを開発し、調理済みの給食を提供する計画である。

（2）石門市場について

石門市場は1994年6月に設立され、北京市順義区仁和地区石門村に位置している。北京市中心部から約20キロ離れ、首都国際空港に隣接している。市場の西側には北京市の第六環状道が通り、市場の東側1キロのところには京承鉄道の幹線が通っている。このように、恵まれた立地と交通環境にある。設立当初は順義区工商分局の所管であったが、1999年7月には順義区市場経営管理センターの所属になった。さらに、2000年12月には上述の北京順鑫農業股份有限公司の持株子会社となり、株式会社への転換と現代企業制度を確立した。現在、同市場は北京市の6大農産物卸売市場の中で、唯一、上場企業



写真2 石門市場全景

出所：同社HP (<http://www.sysmsc.com/Market.aspx> 2010年11月9日アクセス)。

傘下の農産物卸売市場である。

同市場は、これまでの15年間、市場関係者の努力により敷地面積50万 m²、従業員約200名を擁する卸売市場へ発展した。2003年には国家農業部によって、「国家指定卸売市場」として認定され、2005年3月11日にはISO9001の認証を取得した。2006年には国家商務部の重点農産物卸売市場として、初の「全国標準化市場100社」のうちの1社となった。2007年には、「首都文明市場」の称号を獲得し、「緑色市場」に認証された。さらに、2008年の北京オリンピック、北京パラリンピックでの安全・安心なサービスの提供が評価され、「全国農産物総合卸売市場トップ50」に選定された。

同市場は中国国内の他の卸売市場と同様に、主な取引方式は相対取引である。手数料に関しては、取引品目によって月極めの売場のコーナー・施設利用料方式と対売上高口銭方式の両方がある。農産物の食品安全対策に関しては、石門市場では、迅速検査に合格した野菜には「放心菜」、つまり「安心野菜」のシールを貼り付けている。残留農薬基準値を超える野菜を販売した卸売業者は処罰を受けると同時に、市場の電子掲示板にその名前と売場コードが公開されるようになっている。

現在、石門市場にはセキュリティ監視、食品検査、ネット情報、電子決済、廃棄物無公害処理といった5つのセンターが設置されており、すでに工商局、公安局、衛生検疫所と同卸売市



写真3 石門市場のセキュリティ監視センター
出所：筆者撮影。

場の「四位一体」の管理モデルが形成している。場内には、野菜、果物、食糧・油、水産、食肉・卵・家禽、加工食品・百貨といった6つの営業区域がある。市場内には長期かつ安定的な経営をしている業者が約1,500社あり、取扱商品の品種は1万種類以上に上っている。

市場の取引に関わる集荷・出荷先は全国の20以上の省・直轄市、200以上の県・地区に及んでいる。1日当たりの平均入場者は約1.2万人、入場する取引車両は約5,000台となっている。取扱高は2008年の167万トンから2009年の700万トンへ大幅に増加している。

3. 新発地市場

新発地市場は北京市豊台区に位置し、北側には南三環路、東側には106国道に近いため、ア



写真4 市場内の電子取引センター、食品検査センター

出所：新發地市場 HP (<http://www.xinfadi.com.cn/> 2010年10月11日アクセス)。

アクセスの便はよい。また、同市場は1988年5月に地元の村により創立された農民企業であった。当初は敷地1ヘクタール、管理スタッフ15名、運転資金15万円の金網の塀に囲まれた小型の自由市場（露天市場）であったが、22年間の建設と発展を経て、現在はすでに北京市における8つの農産物卸売市場の中、最大の取引規模を持つ農産物専門卸売市場となっている。同時に、全国と同レベルの市場にも強い影響力を持つようになった。新發地市場は2010年現在、敷地面積約100ヘクタール、建築面積約30万m²、従業員1,759名（うち、警備員約400名）、総資産11.8億元となっている。市場には電子取引センター、監視センター、情報センター、食品検査センターなど管理施設が整備されている。なお、同社には山東省招遠と河北省涿州大石橋に2箇所の分市場（同集団所有の北京市以外の卸売市場）がある。

場内では、主に野菜、果物類、食肉、食糧・食用油、水産、加工食品、調味料、家禽類卵、食用菌類、茶、種子などの農産物が取引され、野菜、果物類、食肉類の卸売を主とした国家レベルの農産物中央卸売市場となっている。2010年現在、場内の固定的な売場が5,558箇所、場所（時間）を決め安定的に取引する取引先が8,000社、一日の平均出入車両が約3万台（回）、

利用者数6万人（回）である。一日の平均取扱高は、野菜13,000トン、果物類15,000トン、豚2,500頭、羊2,500匹、牛150頭、水産物1,500トンとなっている。2009年における市場の各種農産物・加工品の全体の取扱高は902万トンで、取引総額は302億元である。そのうち、野菜の供給量は北京市の消費総額の70%以上を占め、同様に果物・輸入の果物はそれぞれ北京市の消費総額の80%以上、90%以上を占めている。2009年の年間納税総額は約2,000万元であり、名実ともに北京市民の「台所」とであると同時に、地方の納税大企業である。

新發地市場の野菜は全国各地から搬入されているので、入荷の際には電子登録が必要であり、緑色標識や製品の検査証明の有無が問われる。市場内の食品検査センターには専門の実験検査室が設けられており、随時サンプリング検査が行われている。検査室のスタッフは三つの班に分けられおり、1日中24時間の随時検査対応が可能になっている。迅速検査機を使用すれば、最短35分で問題の野菜を検出することができるようになっている。また、電子ゲート支払システムを通して、検査不合格商品や残留農薬基準値を超えた野菜を市場外にとどめることが可能となった。一方、生鮮食肉の入荷に関して、同市場ではICカードを導入している。カードに

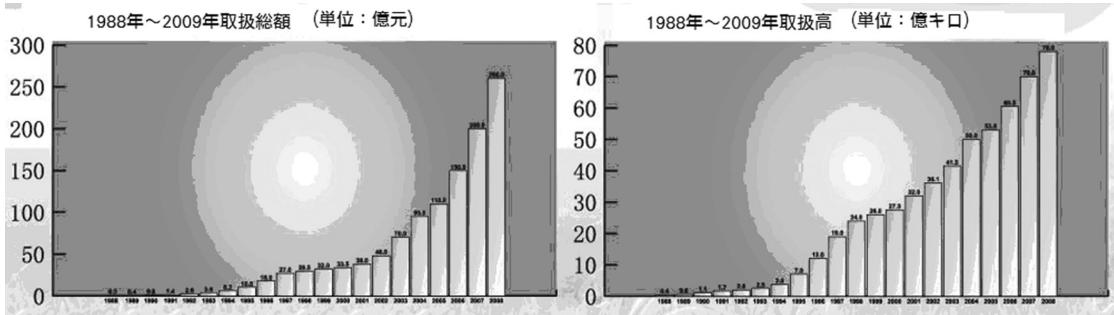


図2 新発地市場取扱総額と取扱高の推移

出所：新発地市場 HP (<http://www.xinfadi.com.cn/> 2010年10月11日アクセス) より筆者作成。



写真5 新発地市場内の業者用の賃貸アパート
出所：筆者撮影。



写真6 新発地市場内の小学校
出所：筆者撮影。

は屠畜、小売などの各過程でさらに情報が付加され、最終的に消費者に販売する精肉にはバーコードが貼り付けられている。もし問題が発生すれば、バーコードやICカードを通して、問題のある所在などを発見でき、出所の不明な肉、或いは認定されていない屠畜場からの肉の流入を防止することができる。

これまで、新発地市場は「取引先に儲けさせ、市場の発展を求める」といった主旨に基づき、厳格な管理、心のこもったサービスを提供している。特に、入場している全国各地の業者に対して、安定かつ長期に市場で商売をしてもらうため、市場の中に賃貸団地を建設し、格安料金で提供している。

なお、市場の中には業者家族が利用可能な小

学校やスーパー、レストランなどの施設も整備されている。これは中国国内を見ても例のないサービスであり、多くの業者から評価・支持をされていると同時に、市場の利用率の向上にもつながった。このように、同市場は近年相次いで、「全国文明的市場」、「北京市文明的模範市場」、「農業産業化における国家重点龍頭企業」などの多くの称号を獲得している。

4. まとめ

今回の共同調査の調査先を紹介・案内をしていただいた全国城市農貿中心連合会⁴馬増俊氏に中国の卸売市場に関する今後の展望を伺ってみた。同氏によると、中国の卸売市場は日本や韓国と異なり、当面は拡大傾向にあり、取扱量・

金額ともに今後10年間は伸び続けるだろうとのことである。日本や韓国と同様に、中国においても小売店の大規模化やチェーン化傾向が顕著に表れているが、独自で多様な農産物を自社のチャンネルを通じて流通させることのできる企業はまだ少ない。したがって、当分の間、中国にとって卸売市場は農産物流通の主要チャンネルになることに違いないと同氏は言う。

中国においては、経済発展とグローバル化、消費者の意識の高まりにより、食品・農産物流通状況も大きく変化している。卸売市場は政府の施策や計画に合わせて、様々な環境変化に対応すべく、廃・統合や整備などを通して卸売市場の機能の高度化を図っている。具体的には以下のような5つの特徴が見られる。

- ①グループ経営の加速 中国では、一部の大規模な卸売市場は地方政府の優遇政策を生かし、有利な資源を統合し、小規模な卸売市場の買収や合併を加速することでグループを立ち上げ、多数の卸売市場をコントロールし、集団化経営の運営方式を採用している。グループとして管理を強化し、集団化による優位性の実現を通じて、卸売市場のブランドを創設している。
- ②単体市場の規模拡大 近年、中国において農産物卸売市場の市場規模は順調に拡大し、年間取引金額が1億元を超えた卸売市場は年々増加している。2008年に中国で年間取引金額が1億元以上となった卸売市場は799社に達した。急速な都市化に伴って、中国各地では卸売市場の移転や再編が加速している。浙江・江蘇・福建・重慶等の地域においては、広範囲にわたって影響力を持つ大規模農産物卸売市場が次々と新設された。北京・天津などの大都市では、大規模卸売市場の創設も計画されている。
- ③営利から公益的機能への転換 かつて、中国政府は農産物卸売市場の創設に対して「投資者が市場を管理し、利益をもたらす」という

政策を実施していたため、卸売市場の投資主体は多元化され、政府以外の投資が主導し、営利を市場運営の目的としていた。しかし、近年、農産物供給の保障・需給の調節・価格の安定などの農産物卸売市場が本来持っている公益的機能が重視されている。そのため、農産物の販売難や重大な自然災害の発生時、卸売市場は供給の保証や価格の安定において積極的な役割を果たしている。

現在、中国政府は農産物卸売市場の公益的機能を重視し、科学的な計画・卸売市場のレベル・アップや再編を核として、農産物トレーサビリティ・システムの構築や価格形成メカニズムの整備を通じて、食料品の安全の保障・市場価格の安定・市場需給の調節を実現させ、卸売市場経営は准公益的機能（営利と同時に一定の公益的機能を持つ）へと転換させようとしている。

- ④先進的な理念による新たな市場機能の創出 長年の発展により、中国の農産物卸売市場は、農産物集荷・品質安全保障・需給調達などの基本的な機能を備えると同時に、先進的な理念によって、電子ビジネス・配送・廃棄物処理などの新機能も育成している。
 - ⑤国際農産物貿易の新たなプラットフォーム 中国の農産物卸売市場は大量の業者が存在しており、農産物が豊富で、供給も安定している。また、農産物卸売市場は豊富な資本金を持ち、信用も保障されている。市場の組織化が進められ、業界協会からの支援もあるため、農産物卸売市場は国際農産物貿易の新たなプラットフォームとなっている。
- 一部の大都市や地方政府ではすでに農産物流通に関わる安全問題への対応として、トレーサビリティ・システムの構築と完全化を進めている。これに伴って、中国全人代の審議により、新しい食品安全法が実施された。それに伴って、食品流通における変化や卸売市場の新たな対応が進んでいる。また、食品安全

委員会のリーダーシップなどが期待される。なお、筆者のこれまでの研究に基づき、今後、卸売市場を中心とした中国農産物食料品流通の課題として、以下の点が指摘できると考える。まず、農産物流通に関する法整備が遅れ、現行法の遵守の徹底や新たな状況に対応する法律の制定が不十分である。次に、中央や地方政府、多くの農産物流通主体がこれまで大都市の農産物流通施設についてかなり投資してきたが、拡大し続ける消費需要への対応という面では不足しているという感がある。特に、消費地卸売市場よりも産地卸売市場の設備整備が遅れており、資金投入が乏しい。加えて、物流にかかわる冷蔵車両や設備がまだ少なく、それに起因するロス率が高い。そのため、農産物流通にかかわる産地出荷組織や経理人（代理人）などの組織体制作りが今後の発展にとって重要なポイントになる。生産者への正確な市場供給情報の提供や輸出市場の変動による影響なども、これから農産物流通を左右する要因であろう。

注

- 1 批発市場は中国語の「卸売市場」の表記である。
- 2 股份は中国語の「株式」の表記である。

- 3 中国国家商務部が中心となって審査し、認定する老舗ブランドである。「中華老字号」（老舗）の選出には明確な基準がある。「歴史が長く代々受継がれた商品を持つこと、技術やサービスに民族文化的な背景と積み重ねがあり、社会に広く認知された上品質のブランドであること」で、しかも50年以上の歴史が必要である。
- 4 中国全国4000ヶ所以上の農産物卸売市場を統括する業界組織である。

参考文献：

1. 徐涛「中国における農産物・食品流通の発展と高度化－卸売市場の変革と食品安全における対応強化を中心に」『食品流通の最前線』中村学園大学流通科学研究所、2010年。
2. 甲斐論『食農資源の経済分析－情報の非対称性解消をめざして－』財団法人農林統計協会、2008年
3. 魏台錫「卸売市場の進むべき道と進んではならない道」『視線集中 GS&J 第84号』GS&J Institute、2009年8月（韓国語）。
4. 徐涛「ソウル市卸売市場実態調査報告」『中村学園大学流通科学研究所報』第4号、2010年1月。